

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 8 月 25 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	佐藤 侑太郎

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
日本、山口県 ときわ動物園
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
第 4 回宇部と地球の環境を考えるフォーラム サルリンピック～動物たちに挑戦
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 8 月 19 日 ～ 平成 29 年 8 月 20 日 (4 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
日本モンキーセンター主任学芸員 赤見理恵氏 野生動物研究センター特定助教、日本モンキーセンターキュレーター 大淵希郷氏
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
目的 本出張は、山口県宇部市ときわ動物園で開催される「第4回宇部と地球の環境を考えるフォーラム」に参加し、宇部市やときわ動物園の環境への取り組みについて学ぶことを目的に行われた。
所感 市や動物園が一般の方々に対してどのような教育・広報活動を行っているのかが興味があり、今回の環境フォーラムへ参加させていただいた。 フォーラムの前日にはときわ動物園内を見学させていただいた。総面積は他動物園と比較して大きくないものの、展示方法や見学ルートの作りなどに工夫が凝らされており、動物たちを身近に感じられた。中でも、動物たちの生息環境を参考に作られた展示が印象的であった(図1)。さらに、動物園を含むときわ公園の園内随所に、個人や企業から寄付された物品があり、ときわ公園がいかに市民から親しまれているかを実感することができた。 環境フォーラムは、前半のワークショップと後半の講演があり、その後動物園のガイドが続いた。ワークショップでは、垂直とび、うんてい、短期記憶の認知課題、大声の測定を参加者に体験してもらい、動物たちの能力に挑戦してもらった(図2)。私はうんていコーナーのお手伝いをしたが、参加者が怪我をしないよう配慮するだけで精一杯であった。 後半の講演では、大淵氏の講演の時間を少し頂戴し、自分

図 1. ときわ動物園のシロテナガザルの展示。写真下部の建物は、シロテナガザルの生息環境にある現地の建物を参考にデザインされているとのことであった。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

の研究についてお話する機会をいただいた。セミナーやシンポジウムなど、大学の学生、研究者を相手にお話しすることはあるものの、一般の方々に向けてお話するのは初めてであり、日頃とは違う緊張感があった。今回の発表での反省点は、今後の学会発表等でも生かしていきたい。

今回のフォーラムへの参加は、一般の方々へ発表を行う機会となっただけでなく、市や動物園の取り組みを間近で見る貴重な経験となった。2日間という短い日程ではあったが、非常に有意義な出張であった。



図 2. ワークショップで展示されたうんてい。テナガザルのブラキエーションの能力の高さを体感してもらう目的であった。

6. その他（特記事項など）

本出張において、日本モンキーセンター主任学芸員 赤見理恵氏、キュレーター 大淵希郷氏、飼育主任 田中ちぐさ氏、京都大学霊長類研究所 浅見真生氏に大変お世話になった。お礼申し上げます。また、温かく迎えていただいたときわ動物園職員のみなさま、宇部市職員のみなさまに厚く感謝申し上げます。